



左から、今川裕樹さん、今村直人さん、俊野裕一さん、木戸元恵実さん。



## 順風会 健診センター

業種：医療

業務内容：全国健康保険協会による生活習慣病予防健診、企業の雇入時健診および定期健診、日帰り人間ドック、婦人科検診、巡回健診、ストレスチェックほか

年間受診者数：約16万人

# 問診票をスキャン&OCR処理して健診システムと連携、年間16万人の健診業務を円滑化

### 受付後に問診票を即データ化。問診時のPC閲覧とスムーズな呼び出し・誘導を実現

四国で年間16万人の健康診断を請け負う順風会 健診センター（愛媛県松山市）では、健診に不可欠な紙の問診票を「RICOH fi Series」（以下、fiシリーズ）でスキャンしてOCRソフトウェア「DynaEye」でOCR処理し、読み取り結果を基幹の健診システムに自動で入力する運用を行っています。これにより利用者の基本情報が問診時にドクターのPCで見られるようになるほか、問診票のスキャンは利用者さまさまざまな検査へと効率よく案内する誘導支援システムの起点としても機能するため、大規模健診センターの業務に欠かせないものとなっています。同センターを訪ね、システム構築の経緯とPFU製品に対する評価をうかがいました。

- 課題** 民間の健診センターとして設立されて以降、年を追うごとに利用者が大幅に増加したため業務の効率化が慢性的な課題となっていた。
- 解決法** 「fiシリーズ」と「DynaEye」を活用し、利用者が持参した問診票を検査開始前にスキャンしてOCR処理し、データを健診システムと連携させる運用を2016年に開始。
- 効果** 問診時にドクターがPCで問診票情報を即時に確認できるようになり、利用者が紙の問診票を持ち回る必要がなくなった。また誘導支援システムとの連携によって呼び出しが滞ることがなくなり、待ち時間の短縮と稼働率の向上が実現した。

## 「fiシリーズ」で問診票をスキャンし 健診システムに組み込んだ「DynaEye」でOCR処理

— 医療法人順風会より、健康管理統括本部 管理部業務課 課長の今川裕樹さん、同課主任の俊野裕一さんと、順風会健診センター 院内事務部 副部長の木戸元恵実さん、同部の今村直人さんにお話をうかがいます。順風会 健診センターでは現在、利用者が受診にあたって手書きする問診票を「fiシリーズ」でスキャンし、イメージデータをOCRソフトウェア「DynaEye」で読み取ることで、年間約16万人が利用する健診業務の効率化を実現しておられるとか。

**木戸元さん** 2008年の設立以降、利用者が順調に増える過程で効率化を図らなければ回らないという局面が多々発生したため、徐々に改善を重ねてきた結果が、問診票のOCR処理を健診システムに連携させる現在の運用です。

**俊野さん** 全体としては3つのシステムが合体したイメージです。まず健診システムがあり、次に「fiシリーズ」「DynaEye」の画像処理系、さらに誘導支援システムがあります。画像処理系と誘導支援

システムは基幹の健診システムに組み込まれています。

「fiシリーズ」で問診票をスキャンするとイメージデータが健診システムに直送され、健診システム内に組み込まれた「DynaEye」がチェックマークや数字を読み取ります。読み取り結果は健診システムに保持され、健診システムの画面に表示されます。その確認と、読み取りエラーがあった場合の修正は健診システムの画面上で行います。

「fi-8190」が生成したイメージデータを健診システムに組み込まれた「DynaEye」が読み取ります。イメージデータとの照合や修正は健診システム画面で行います。



